



大野 則男 議員

若者と政治を結び付ける考え方は

問 選挙権の満18歳以上への引き下げを機に、若者と政治をどのように結び付けるか。若者が市政に関心を持つような取り組みは。

企画部長 少子高齢化時代に突入した中で、次世代を担う若者の意見に耳を傾けることは大変有意義である。現在、まち・ひと・しごと・創生総合戦略を策定する調査段階で、市内および津島市にある高校の3年生約1千500名を対象にアンケート調査を行い、意見を参考にしながら計画をつくる。



▲岩倉市の若者政策ワーキング案内用チラシ

問 政治と行政を結び付けるための若者政策ワーキングならびに、若者議会を立ち上げては。

市長 若者が市政に対して、興味を持っていただけるように努力する。提案をいただいた案件は、内容などを検討させていただきたい。

今までの質問の精査と進捗は

問 今までの質問の精査と進捗を問う。専門的見地から外部監査を受けるべきだ。

総務部長 高額な費用が掛かる、現時点で外部監査制度は必ずしも必要でない。

問 事業予算執行で随意契約への指摘があった。今後の対策は。

企画部長 予算執行書の様式を改め、適用条項、適用理由、業者選定理由、選定業者数などを記載し、チェック体制の強化を図っている。

問 駅を核とするまちづくりで佐屋・永和の進捗は。

経済建設部長 佐屋駅は、鉄道業者としっかりと打ち合わせを進める。永和駅周辺は、活性化が必要な場所と考える。

市長 駅周辺の活性化は、市として重要と考えている。鉄道業者、周辺関係自治体と情報共有し、また、地元のみなさんにも十分認識を持っていたとき、最大限協力いただきたい。



吉川 三津子 議員

スマートフォンを利用して市民参画を

問 弥富市は、スマホ（スマートフォン）の無料アプリ（i広報）を使っており、広報をスマホでページをめくるように見ることが出来る。また、半田市では、道路の不具合や公共施設の破損情報を、無料アプリから市民にアップロードしてもらうことにより、写真付きでGPS機能で場所の特定もできるので、迅速に市は対応できる（マイレポはんだ）。行政が無料アプリを使うことは、一般的になりつつある。導入の考えは。

総務部長 全国的に導入事例が少ない。検証を行い判断する。

問 これからは、積極的に先行して取り組むことが重要。若い職員に意見を聞いたのか。

総務部長 聞いていない。



▲スマホで情報提供